

経営比較分析表（令和4年度決算）

岐阜県郡上市 郡上市市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	対象	ド透訓	救臨へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
39,115	15,089	-	第2種該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
108	42	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	150
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
107	-	107

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

郡上市における中核的医療機関として、二次医療を中心に救急医療、小児医療、周産期医療、へき地医療等の政策的医療提供の役割を担っている。また高齢化率35%を超える同市における高齢患者等の受け皿としての役割を担い、慢性期医療及び在宅医療の提供を行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医療収支比率は、新型コロナウイルス感染症対応の継続による療養病床の閉鎖に伴う入院収益の減少、費用の増加（給与費、物価高騰等による経費の増）の一方、発熱外来対応による外来収益の増加、材料費の抑制により昨年より0.7%ポイント上昇の83.7%となった。経常収支比率についても医療収支比率と同様の理由で0.2%ポイント増の91.4%となった。なお、市の財政状況等により繰出金の抑制が続いているが、満額の繰出金があったと仮定すれば、経常収支比率は96.5%までは上昇する。

材料費対医療収益比率、職員給与費対医療収益比率については類似病院のみであり、適切な職員配置、薬品・診療材料の効率的な調達による一定水準で達成はできているといえる。1人1日当たり収益は、入院収益は療養病床閉鎖により類似病院を上回ることとなったが、外来収益は下回っている。外来収益が平均を下回る原因は分析する必要があるが、都市部の病院と比べると当該のような地方の病院は低くなる傾向にあるようである。

累積欠損金は、類似病院が5年間で1.8%ポイント上昇したものの、昨年度比2.7%ポイント減少であったのに対し、当院は5年間で41.3%ポイント上昇、昨年度比8%ポイント上昇しており、慢性的な赤字状態に陥っている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産全体の償却率としては46.6%と平均を大きく下回っているが、これは資産の大半を占める建物(耐用年数39年)の供用開始が平成18年度であり、経過年数16年と平均より新しい建物であるためである。しかし、その内訳である器械備品減価償却率については、財政難により器械備品の更新の抑制を続けざるを得なかったことから年々上昇し、5年前より7ポイント上昇、類似平均より3.5ポイント高い77.8%となった。

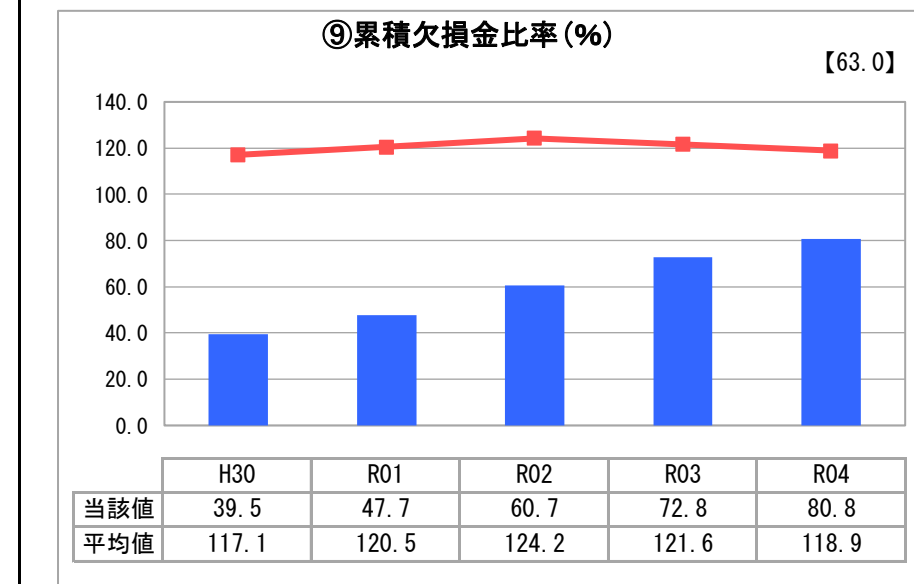
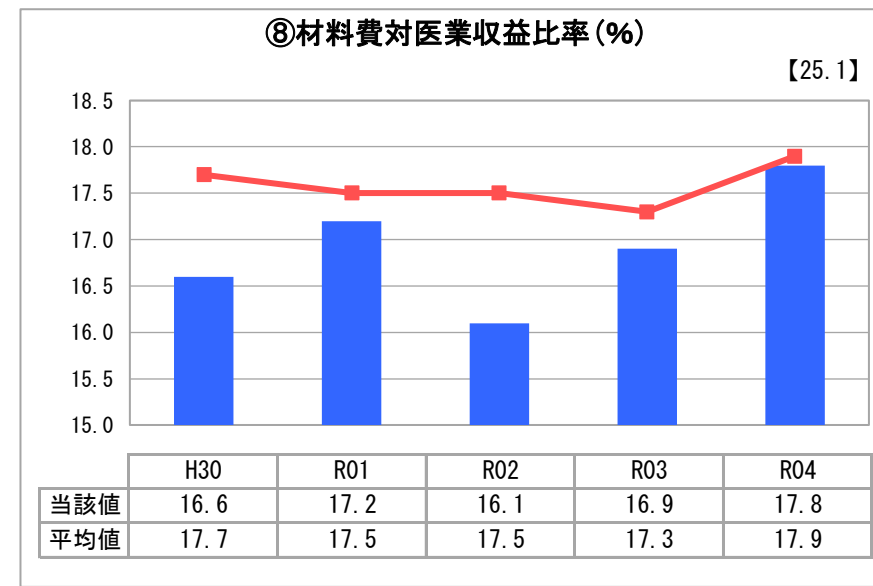
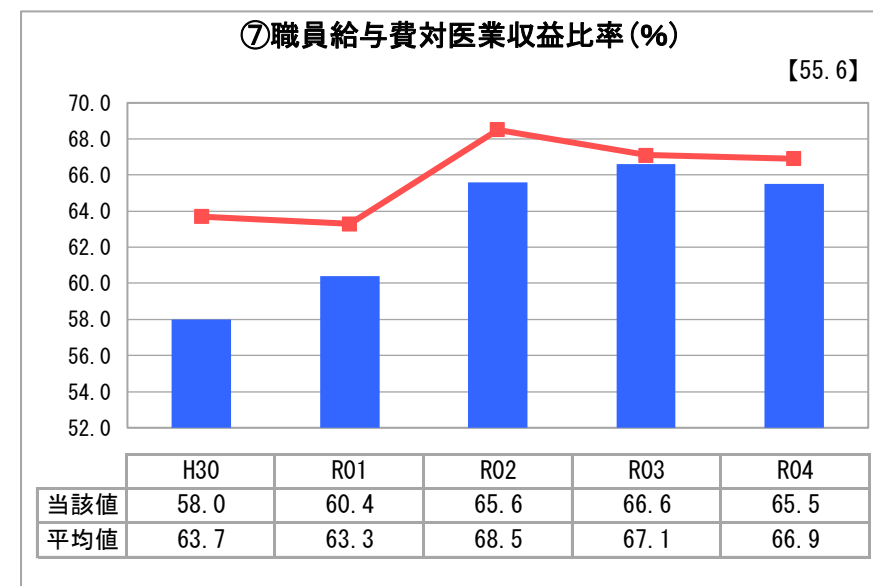
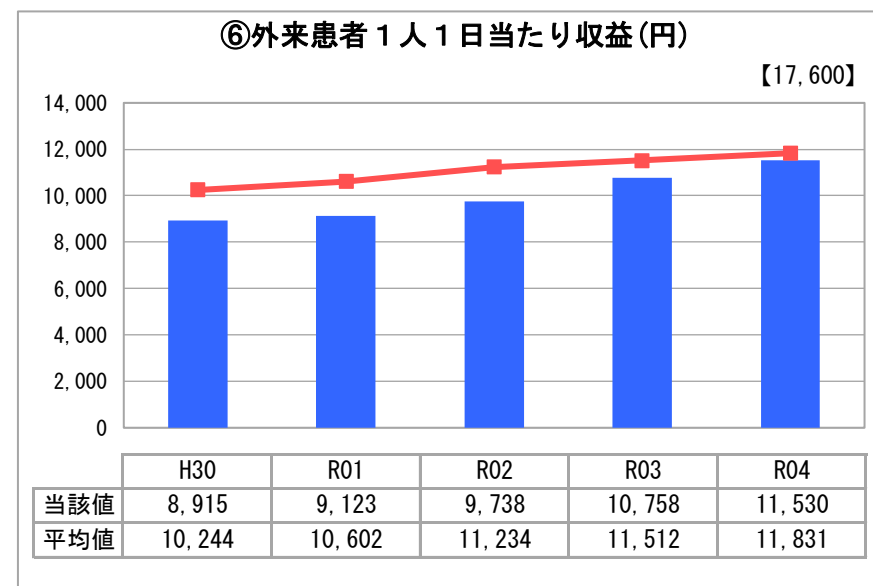
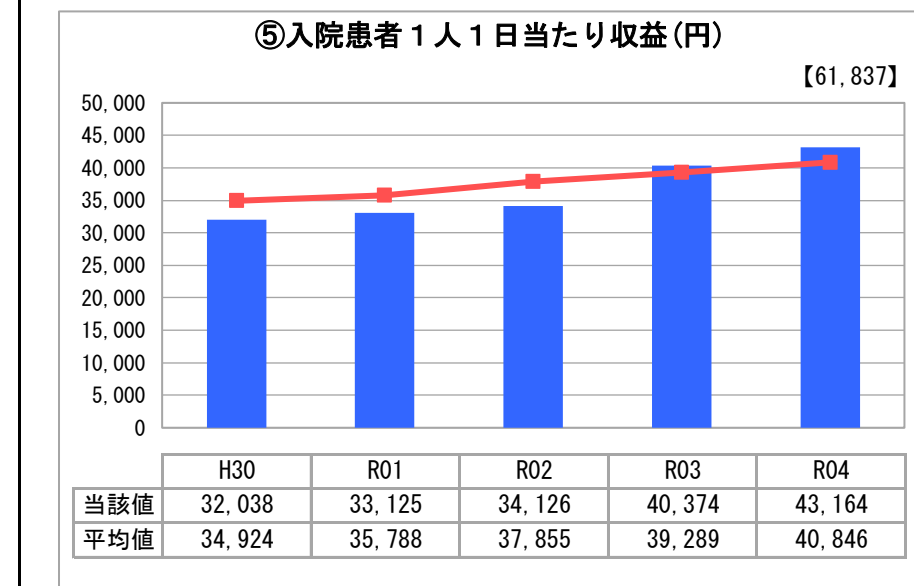
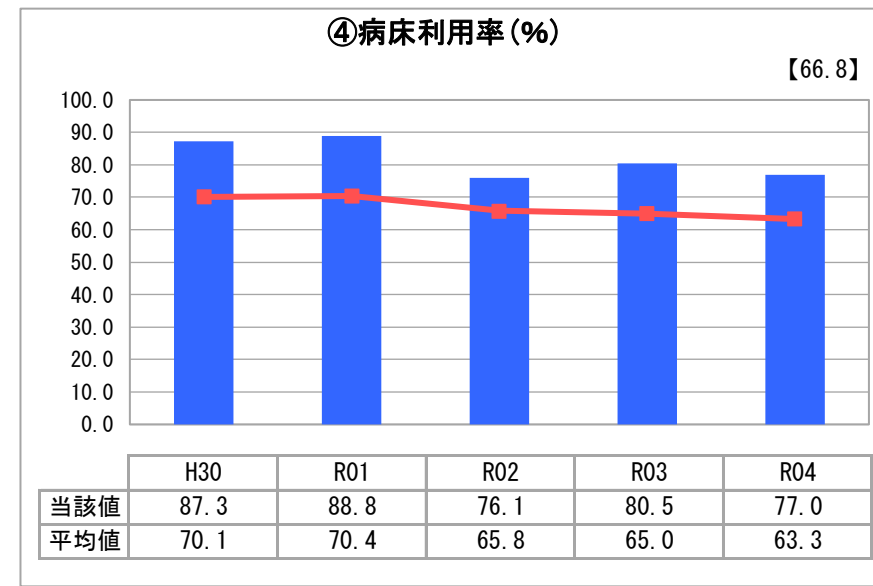
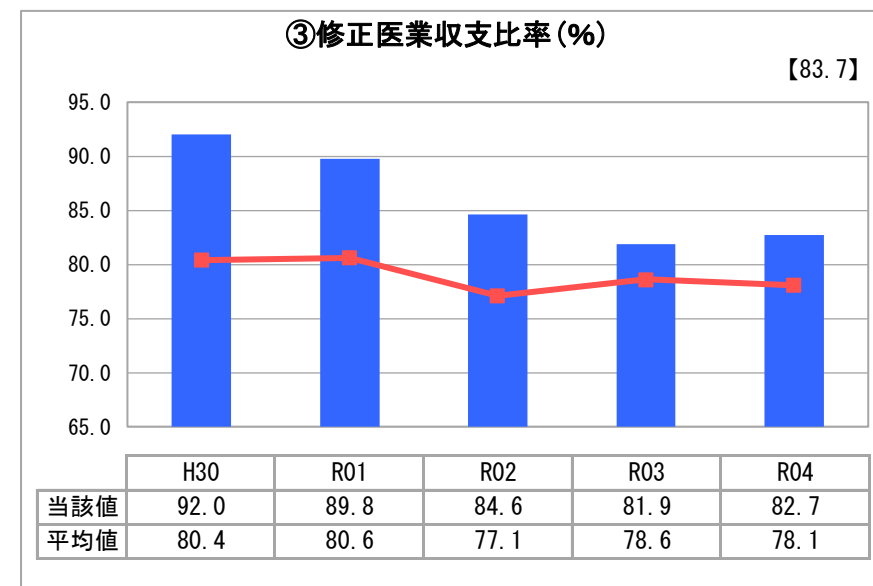
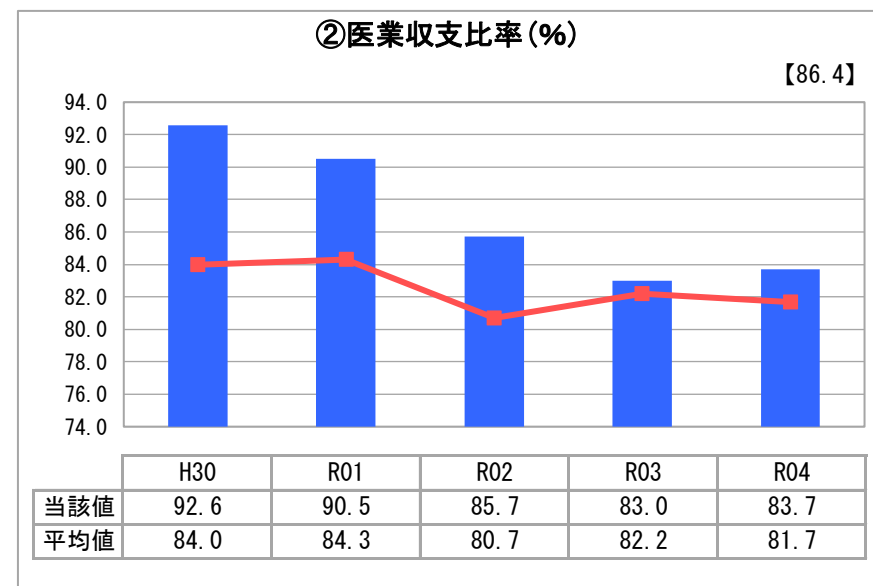
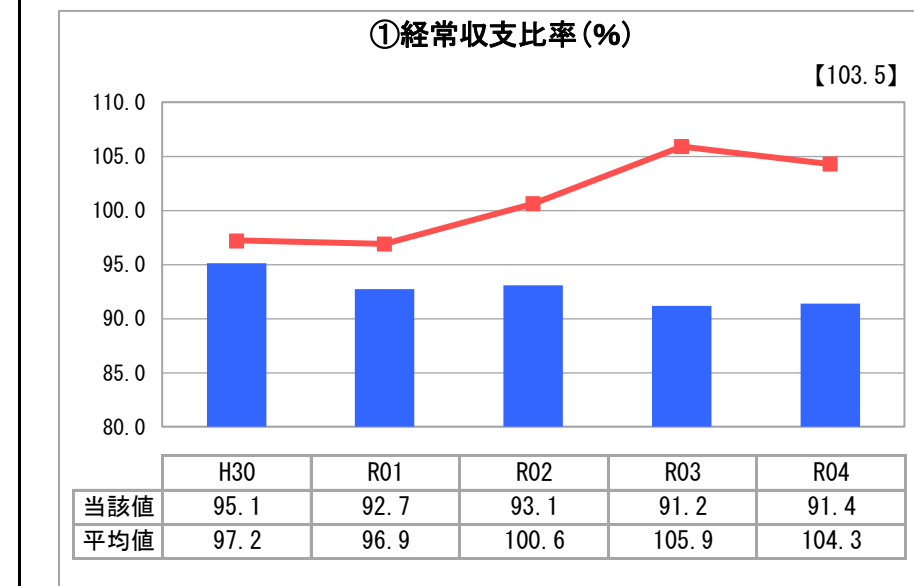
1床あたりの有形固定資産額は、無停電電源装置の更新等により昨年度より1,000千円以上増加した。類似病院の約1.15倍と高く、当院は過大な資産を抱えた病院だといえる。医療収支比率が悪化している現状も加わり、今後発生する過大な施設更新費が経営を圧迫する要因となる。

全体総括

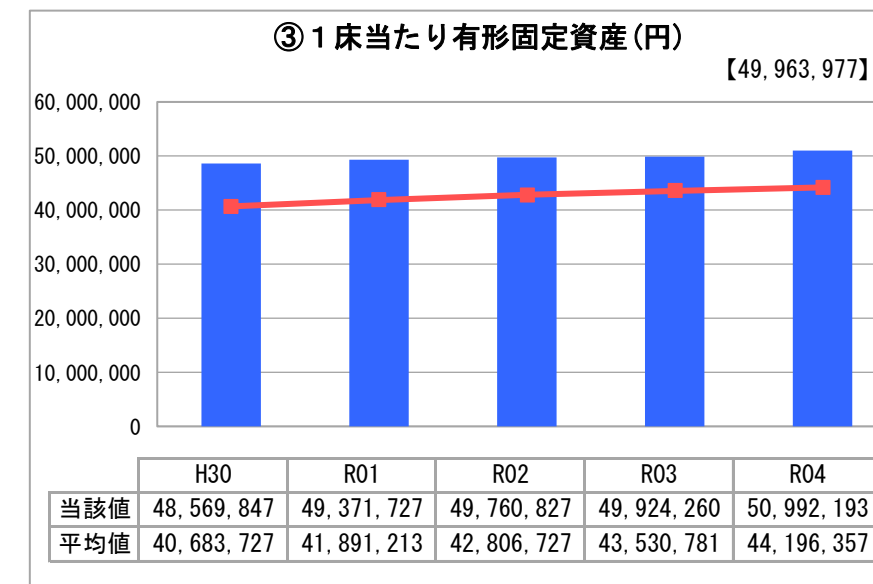
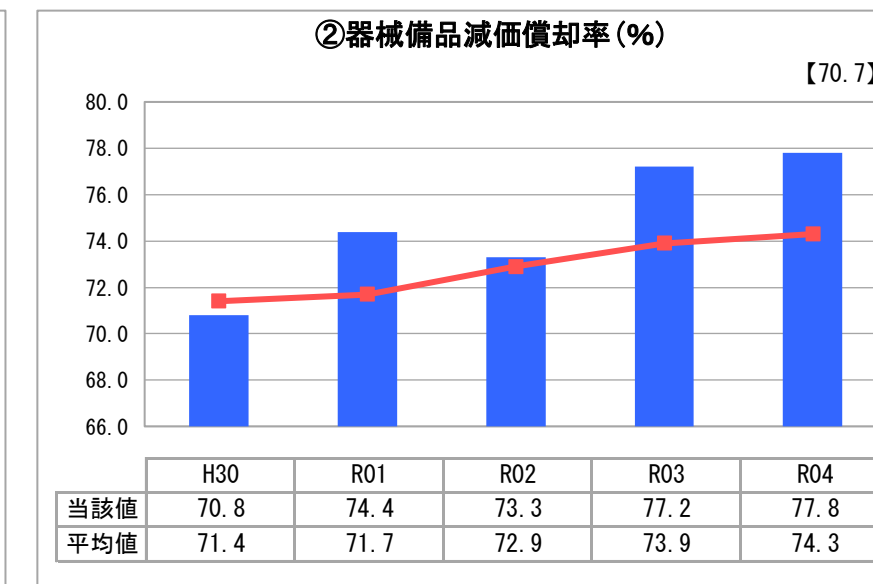
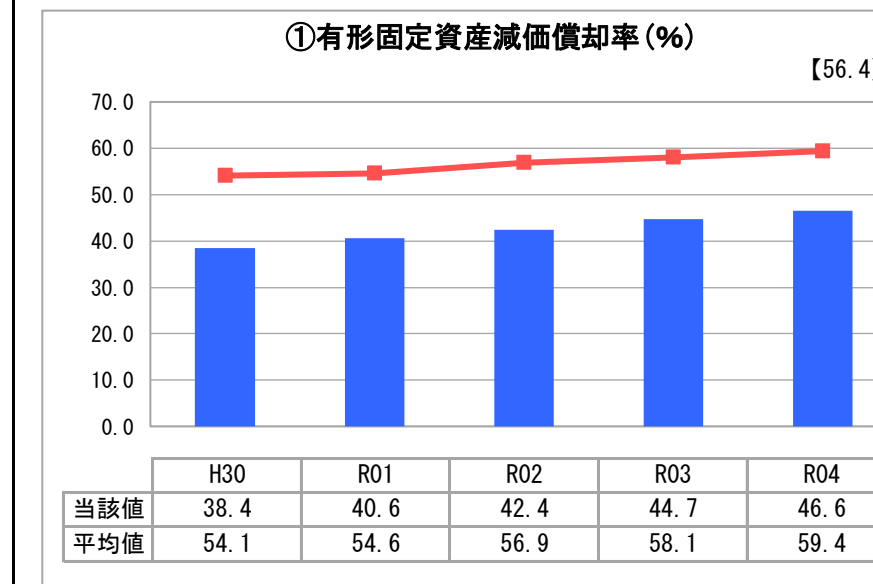
慢性的な赤字経営の中、建設から16年を迎え、施設設備の更新が必要となってきており、難しい経営を迫られているが、全職員が課題を認識・共有し、それぞれの立場から課題を解決していく必要がある。

今後の少子高齢化や人口減少等による医療需要の変化や医療圏における医療提供体制の変化を踏まえながら、白鳥病院や他医療機関との機能分化、連携強化についての検討を行う。そして、これらを踏まえた施設整備計画、医療機器整備計画を策定し、施設等の効率的・計画的な更新を行う必要がある。また、職員の更なる適正配置と医師の確保は喫緊の課題であり、この解消により、人件費を抑えながら、病床利用率を向上させ、医療収益の維持・増収を図る。加えて、各部門の業務の見直しによる事務効率化、契約の見直し・入札による競争推進、医薬品等の調達方法の見直し、医療材料等の在庫管理の徹底、不必要な経費の洗い出しによる経費削減、抑制が必要となる。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和4年度決算）

岐阜県郡上市 県北西部地域医療センター国保白鳥病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
39,115	7,393	第2種該当	-	13:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
46	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	46
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
45	-	45

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

市北部地域の入院を主とした2次医療を高度医療提供病院との連携及び近隣民間病院との機能分担により担うとともに、当院と市内4診療所及び白川村2診療所、高山市荘川診療所が連携する「県北西部地域医療センター」の基幹病院として、へき地医療支援の中心的な役割を担っている。また、郡上市全域において、今後在宅の医療需要に派生して増加が見込まれるレスパイトケアの受入ニーズが高まると想定されるため、地域包括ケア病床を活用し、これらの医療ニーズに対応していく。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、医療収支比率、修正医療収支比率の指標については昨年と比較し院内クラスターによる一時入院の受け入れ停止や、新型コロナウイルス接種回数減少により医療収益の大幅な減少に加え燃料単価の高騰やそれに比例した電気料金の値上げによる医療費用の大幅な増加により、経常収支比率は△7.2ポイント、医療収支比率は△6.2ポイント、修正医療収支比率は△7.1ポイントと昨年度の数値を下回る形となった。病床利用率については令和2年度以降病床数の削減による適正化と全病床の地域包括ケア病床への転換により上昇傾向にあったが令和4年度については、院内クラスターの影響により前年比△4.2ポイントの69.0%となった。入院患者1人1日当たりの収益については、令和2年度以降の病床転換により上昇傾向にある。外来患者1人1日当たりの収益については、在宅療養の強化により訪問診療の増加に加え、令和3年度に引き続き新型コロナウイルスの検査等の診療単価の高い診療件数が増加したため上昇傾向にある。職員給与費対医療収益比率、材料費対医療収益比率についてはどちらも類似病院平均より低く抑えられており、適切な職員配置、薬品、診療材料の効率的な調達が行われていると考えられる。令和4年度の指標については昨年度と比較し全体的に不良な状態となった。今後も経常収支比率が100%を超えるため、収益を増加するための患者の確保及び経費削減を図り、健全経営の確保に向けて努力していく。

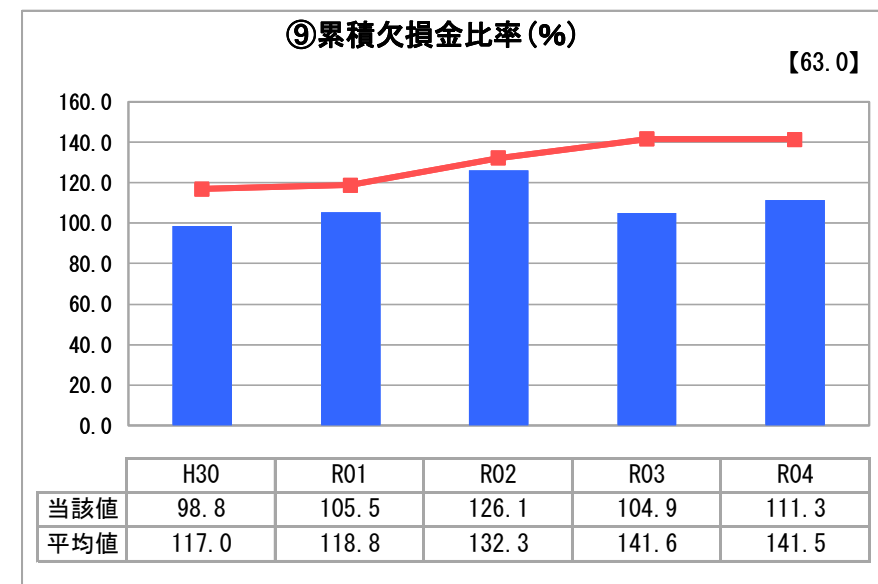
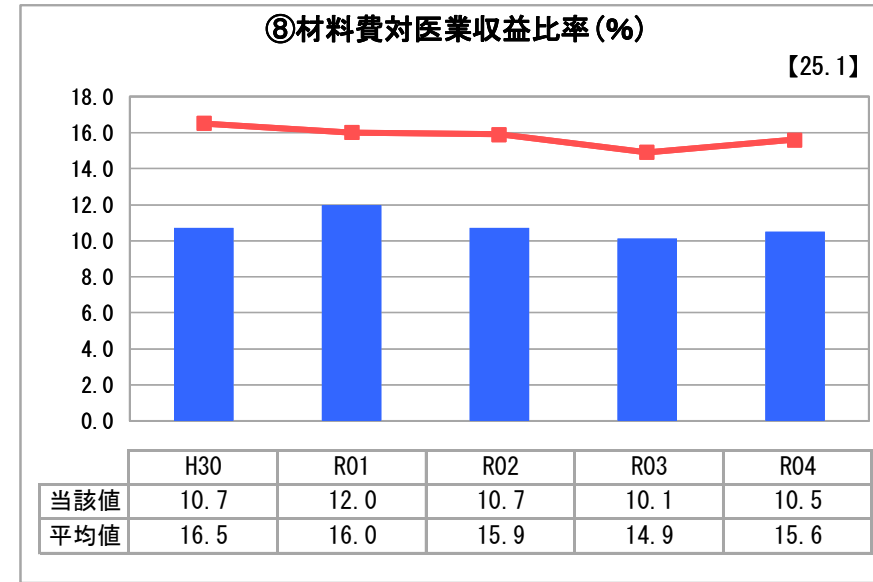
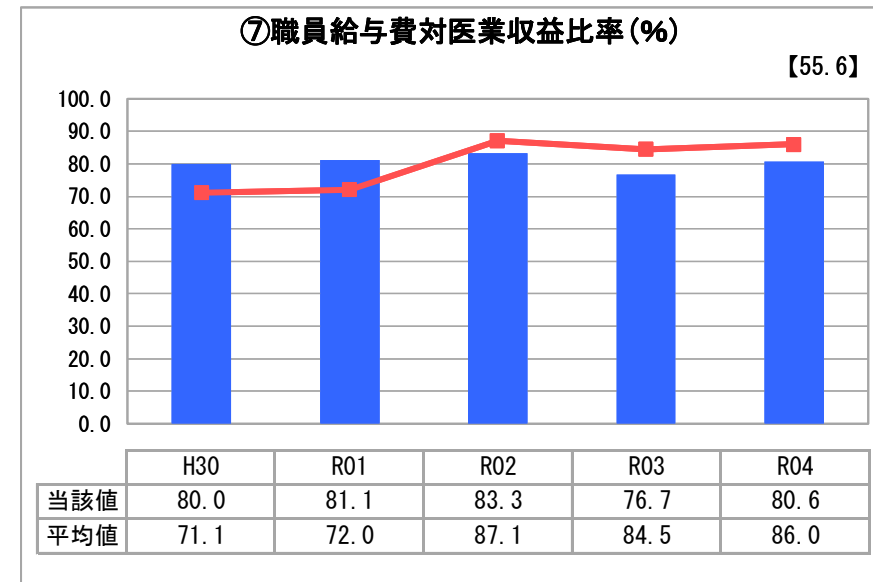
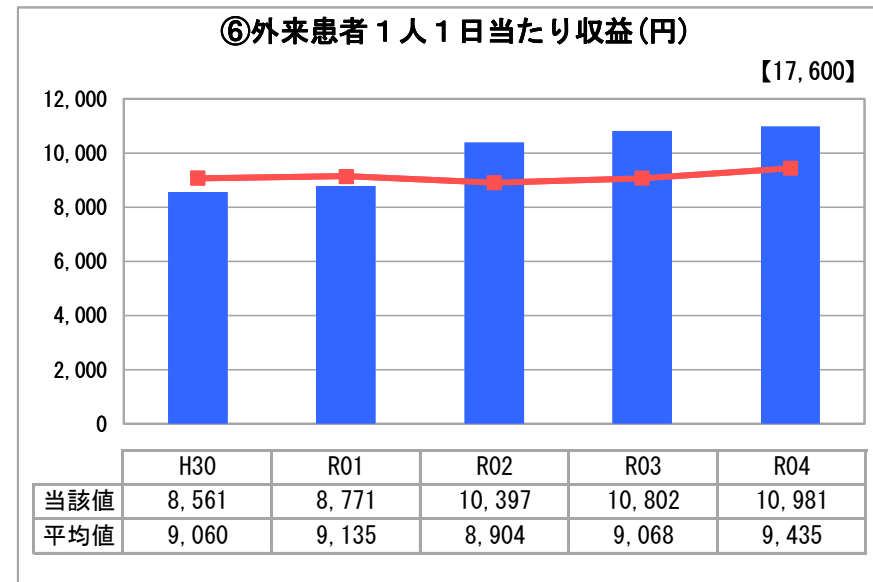
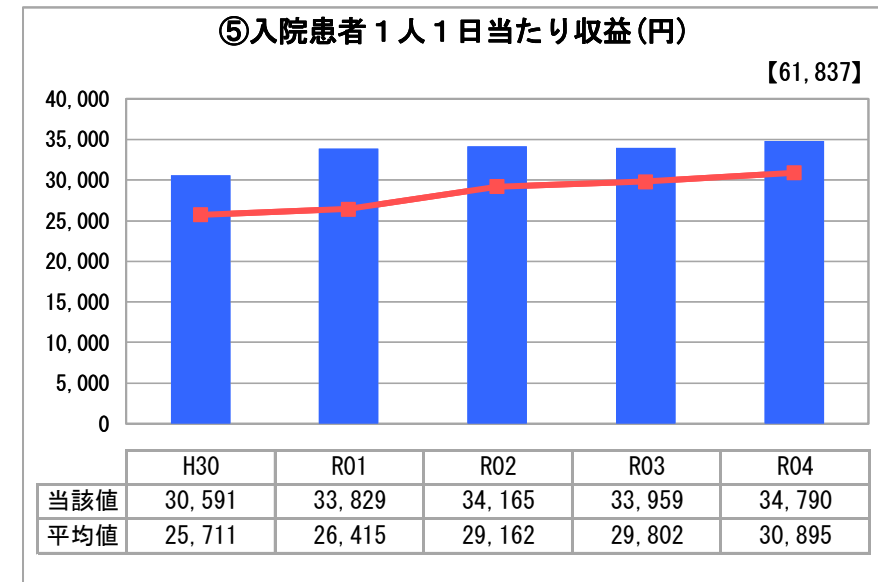
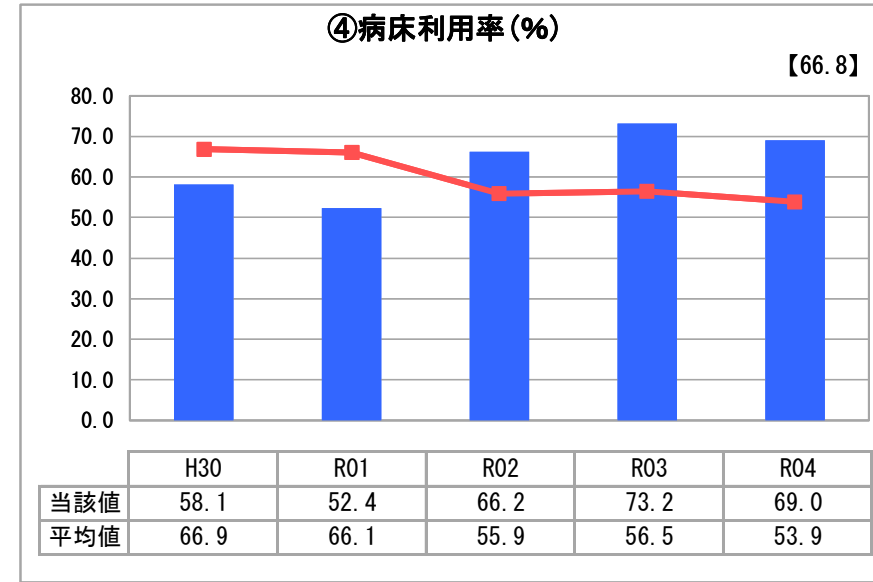
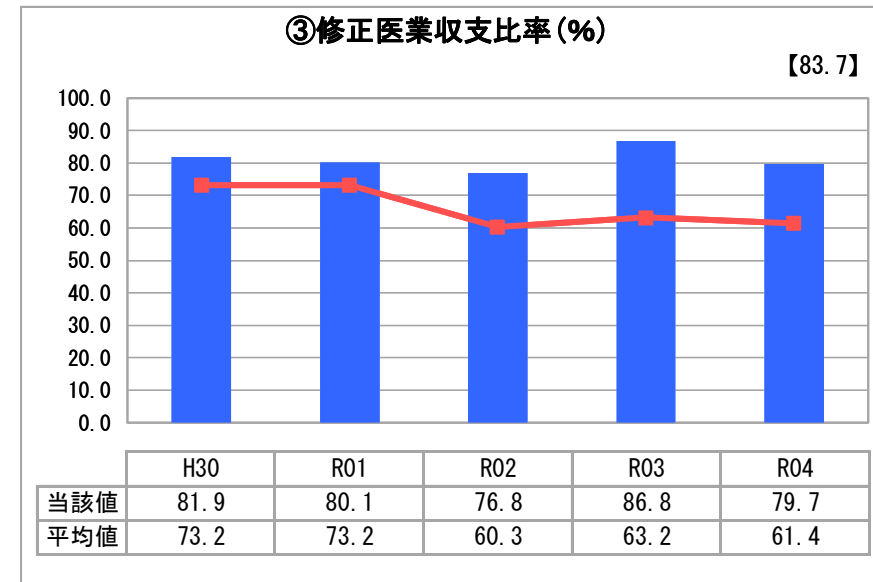
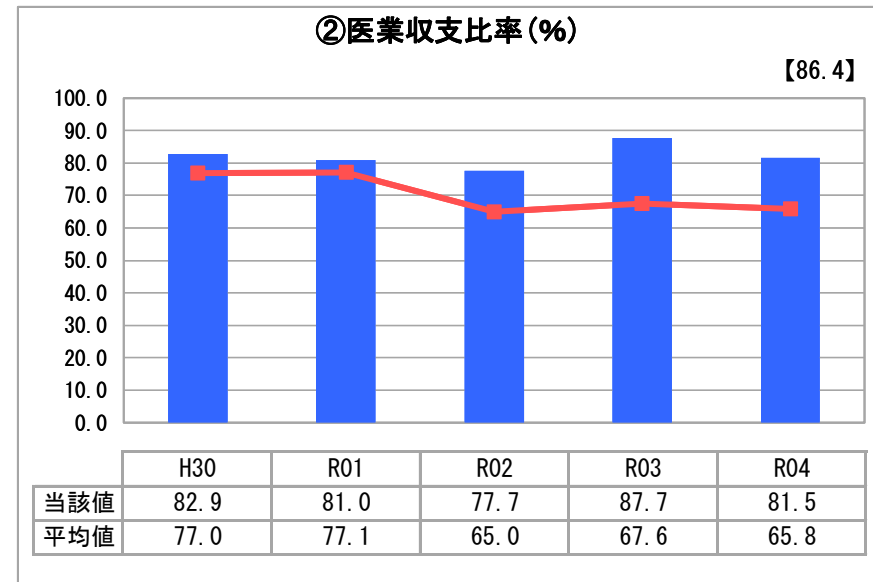
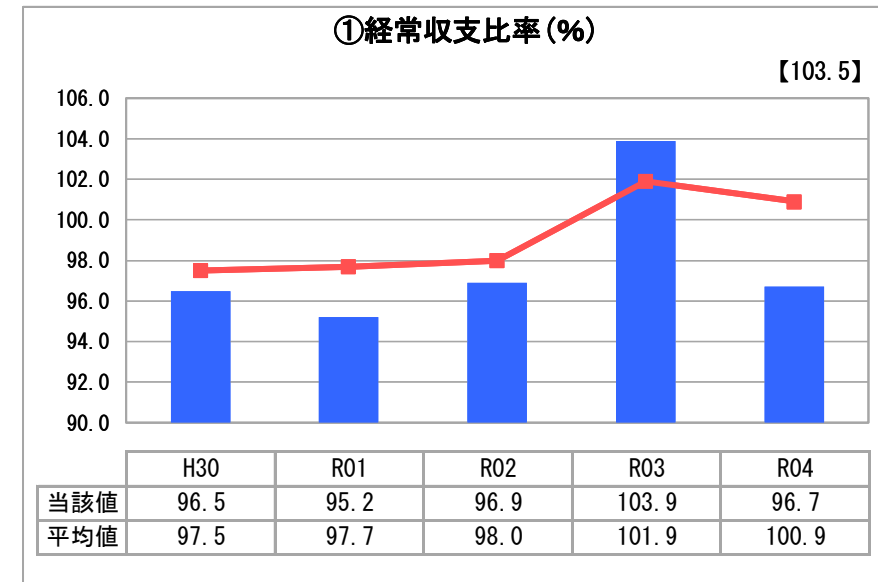
2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、器械備品減価償却率ともに平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。建物については病院建設後26年が経過しているため、老朽化調査を実施し、修繕計画を立案したうえで、中長期的な資金繰りの安定性を検証する。施設・設備の更新については、長期的な視点から、適正な規模、診療体制を維持管理費の抑制に資する手法と併せて検討し、投資と財源の均衡を図る。

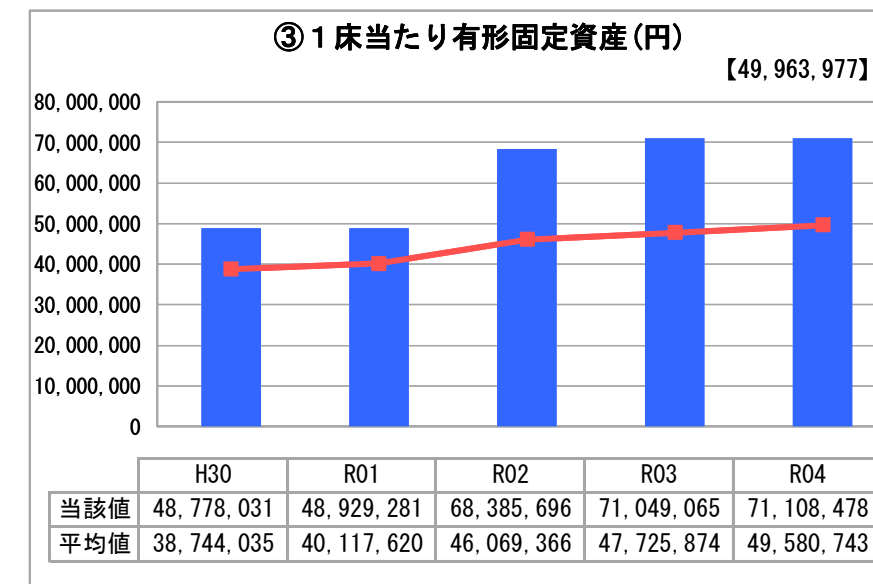
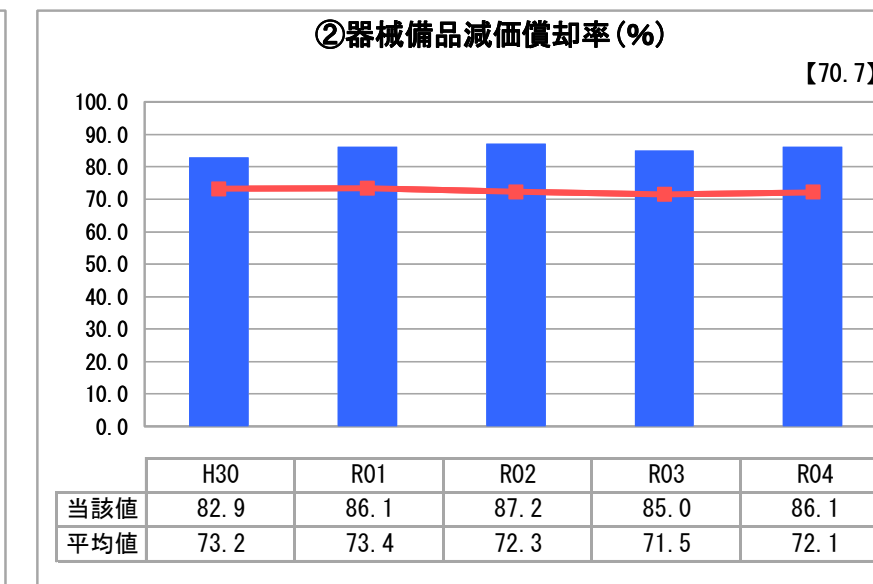
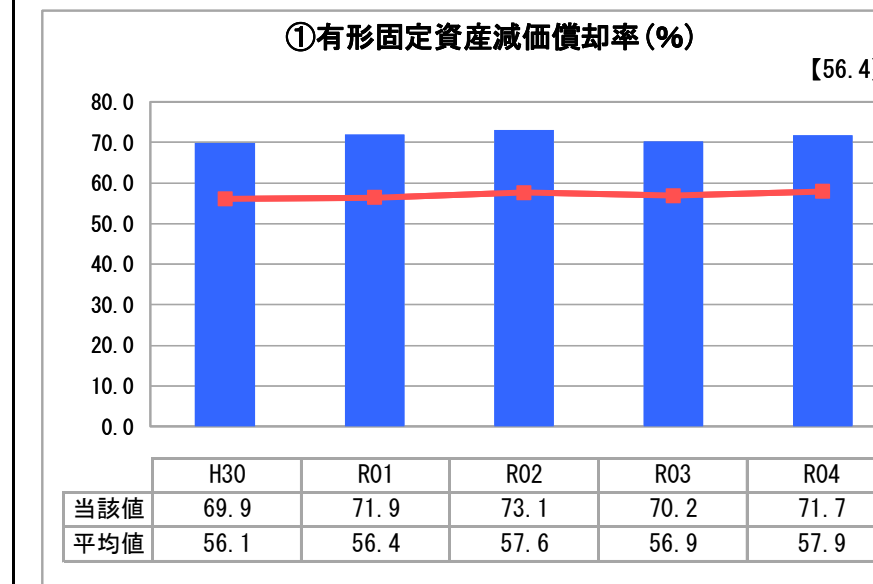
全体総括

人口減少や少子高齢化が急速に進展していく中で医療需要も大きく変化し地域ごとに適切な医療提供体制の再構築が必要となっている。市内の急性期病床は過剰な状態であったため他の病院との役割分担に積極的に取り組む意味もあり令和2年度に病床数の削減と、全ての病床を地域包括ケア病床へと転換した。今後も地域包括ケア病院として在宅医療支援と一般的な病気の対応を中心に地域生活に密着した多岐にわたる入院ニーズに対応し取り組んでいく。また、地域のかかりつけ医として保健・医療・介護・福祉の一体的提供、訪問診療や訪問看護サービスの提供、これらを通じた地域包括ケアシステムの構築に貢献する。さらに、県北西部地域医療センターの基幹医療機関として県北西部地域（郡上市、高山市荘川地区、白川村）のへき地診療所と連携して、当該地域のへき地医療に積極的に取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。